



# 砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

## アレルギー性鼻炎について

耳鼻咽喉科 医師 吉川 智美



アレルギー性鼻炎とは鼻粘膜にアレルギーを起こす物質(抗原)が付着することで起きる疾患です。水溶性鼻汁、くしゃみ、鼻閉(鼻づまり)や目のかゆみなどの症状がおこります。

アレルギー性鼻炎には決まった季節にだけ症状がでる「季節性アレルギー性鼻炎」と1年を通じて症状がでる「通年性アレルギー性鼻炎」とがあります。

私たちがよく耳にする「花粉症」はスギ、ヒノキなどの花粉が原因となる季節性アレルギー性鼻炎のひとつです。

通年性アレルギー性鼻炎の主な原因は、ハウスダストやダニのほか、ペットを飼っている場合は、ペットの毛やフケなどがあげられます。

アレルギー性鼻炎の検査は鼻汁好酸球検査や特異的IgE検査などがあります。鼻汁好酸球検査は鼻汁中の好酸球という細胞を調べる検

査です。特異的IgE検査は採血を行いどの抗原にどれくらい反応が出ているかを調べる検査です。これらの検査によってスギ、ヒノキ、ダニなど、何がアレルギーの原因になっているかの判断に役立ちます。

治療としては①抗原の除去と②薬物療法が主になります。症状によっては手術治療も選択肢になります。

### ①抗原の除去

体に入る抗原の量を減らすことで表われる症状を軽くすることができます。具体的にはマスク、室内・寝具のこまめな掃除、季節性アレルギー性鼻炎の場合は症状の強い時期には外に洗濯物を干さない、外出を控えるなどの方法があります。

### ②薬物療法

薬物療法では内服薬、鼻噴霧用ステロイド薬がよく使われます。重症度や症状、希望に応じて使い分けていきます。

鼻づまりがひどい方では鼻の粘膜を焼いて縮め、鼻の通りをよくするレーザー手術を行うことがあります。当院では日帰り手術で行えます。また、最近では舌下免疫療法という治療が出てきました。アレルギー性鼻炎の原因となる抗原を少量から少しずつ体に投与していき抗原に反応を起こさないように体を慣らしていく治療です。副作用としてアレルギー反応が出ることがあり、

治療には数年間を必要とします。

通年性アレルギー性鼻炎の方は1年中治療を必要とする場合が多いですが、季節性アレルギー性鼻炎の方は症状のあるときのみ治療ですむことが多いです。内服薬は症状が出てからではなく症状の出始める2週間ほど前から飲み始めたほうが症状も軽くなります。スギ、ヒノキの花粉症で早い方では1月の後半から症状が出ることもあります。

花粉症でつらい思いをしている方は、早めにかかりつけ医に受診しお薬を飲み始めてみてはいかがでしょうか。

●主な花粉の飛散時期●

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スギ											
ヒノキ											
				オオアワガエリ							
				ハルガヤ							
				カモガヤ							
						ブタクサ					
								ヨモギ			